【会議録】

（氏名非表示）

件　名	令和８年度第１回春光台公園運営協議会		
日　時	令和８年９月１１日（金） １８：００～１９：２０	場　所	春光台公民館 １階講座室
出席者	【参加者】８名 大島功三、関戸大地、三浦隆一、小原陽一、林綾子、秋元詠子、齋藤麻実、小根麻里 【事務局】５名 公園みどり課　酒井課長、村形主幹、飛田補佐、佐原主査、生野主任		
欠席者	【参加者】　１名 横山孝		
資　料	・会議次第 ・資料１：春光台公園運営協議会開催要綱 ・資料２：春光台公園運営協議会の位置づけ ・資料３：春光台公園の遊具改修について		

《概要》

次第１　開会

「開会」

（進　行：事務局）

本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和８年度第１回春光台公園運営協議会を開催いたします。

本協議会の開催に当たり、公園みどり課長の酒井より御挨拶申し上げます。

【課長挨拶】

次第２　参加者紹介

（進　行：事務局）

それではお配りしました次第に基づき進めさせていただきます。

はじめに本協議会参加者のご紹介です。

本協議会には、資料１「春光台公園運営協議会開催要綱」の第３条にありますように、公園管理者、そして市長が認める者として、学識経験者、自然環境団体、商工関係団体、地域代表、そして公募市民の方に参加を依頼しております。

私の方でお名前をお呼びいたしますので、簡単に自己紹介をお願いいたします。

【参加者自己紹介】

以上９名の皆様に御参加いただき、本協議会を開催していきたいと思います。

参加者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、本協議会事務局の紹介です。

【事務局紹介】

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る前に、前回の任期終了後から期間があいたこともありますので、改めて本協議会の位置付けについて御説明いたします。資料２を御覧ください。

本協議会は、都市公園法第 17 条の２に基づき、公園利用者の利便の向上を図るために必要な協議、意見交換を行うことを目的に設置するものであり、春光台公園を効果的に整備、管理、活用することについて協議し、利用者の多様性に富む利活用を推進するために、公園管理者や地域の方など、市民が情報交換と意見交換を行うものです。

本市は協議会での意見交換内容を参考としながら、公園の保全と活用を両立させる施策等を検討し、公園の基本構想や基本方針等に係わるものについては、本市の附属機関である、旭川市緑の審議会に諮り、審議を行うこととしています。

本協議会は、市の附属機関という位置付けではなく、学識経験者や市民、関係団体などか

ら意見を伺い、その内容を行政運営の参考とするために開催する「懇談会」に位置付けられます。
　従いまして、附属機関のように、本協議会自体が、何らかの意思決定や意見のとりまとめを行うものではありません。
　協議会参加者の皆様からいただいた意見を事務局が持ち帰り、意見を参考としながら事務局が方針をとりまとめるという流れとなります。
　協議会として意見のとりまとめなどを行うわけではないので、参加者の中から協議会の委員長を選出するということはいたしませんが、「春光台公園運営協議会開催要綱」の第４条にありますように、協議会の円滑かつ活発な議論を行うため、参加者の互選により、会議の進行役をどなたかにお願いしたいと思っております。
　事務局案として、Ａ様にお願いしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。
（異議なし）
　それでは、本協議会の進行役をＡ様にお願いしたいと思います。
　Ａ様、ここからの進行をよろしくお願いいたします。

次第３　春光台公園の遊具改修について
（進　行：Ａ）
　それでは、次第に従いまして進めてまいります。
　次第３「春光台公園の遊具改修について」、事務局から説明をお願いします。
（説　明：事務局）
　それでは、次第３「春光台公園の遊具改修」について説明させていただきますので、お手元の資料１を御覧ください。
　【資料１に基づき、経過説明、令和７年度調査結果、再整備案（素案）、今年度の取り組みとスケジュールについて説明】
（進　行：Ａ）
　ただいま、事務局から、「春光台公園の遊具改修」について、報告と説明がありました。
　前回までの会議において、大型遊具の建て替えについては、劣化具合や安全面を考慮し、全面改修が適切との考えから、近隣の小学校や幼稚園などにアンケートを取ったり、本協議会でも意見交換を行い、３つの案から１案、「森のかくれんぼ」に絞ったところですが、その後、市民から、なんとか今の風の子館を改修して存続することができないか、との意見があり、昨年度事務局で、当初のデザインを生かしつつ、予算の範囲内でどの程度改修可能か、調査・検討した結果、今回、既存の木製遊具の改修案と、新たに更新する案の２つの案が示されたところです。これについて、皆さんから御意見や御質問を伺いたいと思います。Ｂ様から順に御発言をお願いいたします。
（参加者：Ｂ）
　前回の協議会では、事務局から３つの整備案が示され協議してきたわけですが、先ほど課長の挨拶で、風の子館の使用は不可能に近いということで、風の子館の改修については深く検討されていなかったという説明をされていました。その点についてもう少し詳しく説明していただきたいのと、森のかくれんぼの整備案と、風の子館の改修案を比べると、改修案の方が非常に高くつくという点についても、詳しく説明していただきたいと思います。
（進　行：Ａ）
　事務局から説明をお願いします。
（事務局：説明）
　風の子館の改修について深く検討していなかったことについては、風の子館が大型の木製遊具ということで、当時、全面改修するのに 4 億 3,000 万円ほどかかる見込みであったことや、30 年前の遊具ということで、今の安全基準でいくとクリアしていない部分があり、費用面、安全面を第一に考えたときに、新しい遊具にした方がよいと考え、計画を進めてきたところです。その後、風の子館を改修して活用することを検討した方が良いという動きになり、我々も全面改修にこだわらず、使える部分、大事な部分を残した場合に、いくらで改修が可能か検討を進めてきたところです。
（進　行：Ａ）
　次に、Ｃ様お願いいたします。

（参加者：C）
　昨年もこの議題で意見交換しましたが、やはり風の子館は古いということもあり、子どもたちが遊んだときにケガをするリスクが高いということと、維持するための木材も同じ材料を手配するのが非常に難しくなってきており、森林組合などでも最近はあまり木を伐採していないと聞いています。新しい木材で改修したとしても、ボルトが抜けたところに水が入って腐れる可能性もあると思います。維持管理するだけでも撤去費を含め 1 億 5,300 万円もかかることを考えると、森のかくれんぼにした方が良いのではないかと考えています。
（進　行：A）
　次に、D様お願いします。
（参加者：D）
　私は 10 年前に旭川に引っ越してきましたが、そのときに坂を上って初めて風の子館を見たときに、「こんな大きな公園がある」と思ったウキウキ感が忘れられないです。先ほど、森のかくれんぼは似たようなものがほかの公園にもあると説明がありましたが、新しい遊具は似たようなものをほかにも建てられるかもしれませんが、風の子館は同じものを建てるのは難しいと思います。たしかに子どもが隠れてしまったら見つけにくいなどといった面もあると思いますが、そういうところから学んでいくこともたくさんあると思うので、費用がかかってもぜひ風の子館を改修して残してほしいと思います。
（進行：A）
　次に、E様お願いします。
（参加者：E）
　維持管理費を 36 年間で試算しているというのは、36 年後にまた建て替えるということでしょうか。森のかくれんぼは維持費が 5,300 万円ですが、また次に同じだけかかるのであれば、風の子館も毎年少しずつ修理して維持していけば、そんなに変わらないのかなと思いました。また、この概算費用を出した会社は 1 社だけでしょうか。もしそうだとすると、果たしてこの費用を信じていいのかなと思いました。それと、前回の最後の協議会を拝見させていただきましたが、そのときに皆さんが、改修の話は聞いていないとおっしゃっていました。改修の話がない中で、この３つの整備案の中から子どもたちは森のかくれんぼを選んだので、その時点ではそれが一番良かったと思いますが、この素敵な木造の遊具を継続して使おうという気が起これば、もっとコストを抑えて使う方法があると思うので、風の子館はこのまま残して使えるのではないかという気がしました。
　また、アンケートをどこにお願いするのか具体的に教えていただきたいです。子どもたちは目新しいものが好きなので、アンケートの取り方についても、子どもたちの意見ももちろんですが、子どもたちにどの遊具を残してあげたいかという大人の意見も取ってほしいと思いました。
（事務局：説明）
　比較検討案の金額について、風の子館の改修費が 3 億 3,400 万円、森のかくれんぼの整備案が 2 億 3,400 万円となっていますが、その中で維持管理費をどのように出したかという話だと思いますが、風の子館を一部撤去して改修する金額と、現在の風の子館を撤去して新たに森のかくれんぼを整備する金額はどちらも 1 億 8,100 万円かかります。
　36 年間を 1 サイクルとして、メンテナンスしながら使用し、その間、維持管理に係る費用がどのくらいかかるのか計算するのですが、風の子館については木製遊具ということもあり、途中で色の塗り替えや部材を交換する費用がかかります。その金額に、36 年後に使えなくなり、最終的に撤去する費用を足すと 1 億 5,300 万円となっています。森のかくれんぼも同じですが、風の子館と比べると大きさが小さいことから、36 年間にかかる部材の交換などの費用は少なくなり、最終的な撤去も含め 5,300 万円となっています。それらを合計し比較すると約 1 億円の差が出る形となっています。
（参加者：E）
　1 億 8,100 万円というのは、どちらも一緒だということですね。
（事務局：説明）
　そのとおりです。風の子館は部分改修、森のかくれんぼは今の風の子館の撤去も含めて、どちらも 1 億 8,100 万円かかるということになっています。
（参加者：E）
　森のかくれんぼ自体の設置費用はいくらですか。

（事務局：説明）
　新しく設置するのに１億 4,700 万円かかります。
（参加者：Ｅ）
　ありがとうございます。
（事務局：説明）
　アンケートの対象について、北鎮小学校、高台小学校、つくし幼稚園、たいせつ幼稚園と、近隣の町内会で考えています。
（参加者：Ｅ）
　近隣の町内会は何か所くらいですか。
（事務局：説明）
　前回令和 5 年度に実施したのと同じ町内会と考えていますが、現在はそのうちの一つが既になくなっているため、春光台１・１町内会と春光十一町内会にお願いする予定です。
（参加者：Ｂ）
　春光台は１か所だけですか。
（事務局：説明）
　春光台公園から一番近い１か所だけです。
（参加者：Ｂ）
　春光台地区の町内会は１・１町内会だけではなく３か所くらいありますが。
（事務局：説明）
　前回と同じように、風の子館がある場所から一番近い町内会ということで選定しました。
（進　行：Ａ）
　次に、Ｆ様お願いします。
（参加者：Ｆ）
　１・１ページの再整備案の比較検討で、遊び空間と周囲との調和では風の子館が、コストや安全性では森のかくれんぼが優位になっていました。そのほかに、子どもの力をつけてあげるという観点で言うと風の子館が優位なのかなと思って聞いていました。先ほど説明されたように、全面改修ではなく、部分改修で進めたときに、費用面で言うと、前回皆さんで３つの整備案を検討したときとはだいぶ変わってきているのかなと思って聞いていました。
　また、アンケートについて、私自身のことでお話しすると、春光台に住んでいますが、風の子館に行くまでに信号を渡っていくか、遊歩道で下を通って行くか、車で行くときも信号まで行ってから行くという、大人の私でさえなかなか行きづらい場所にあります。なので当然子どもだけでは行かないと思います。学校や幼稚園、保育園でも、きっと集団で先生が何人かついていかないと非常に危険なところに位置していると思います。きっと子どもだけにアンケートを取ると、風の子館よりも色がついて楽しそうな森のかくれんぼの方を選ぶのかなと思ったので、別々にアンケートするのもいいかもしれませんが、少し難しいかもしれませんが、親子で一緒に話しながら回答するのもいいのではないかと思いました。
（進　行：Ａ）
　次に、Ｇ様お願いします。
（参加者：Ｇ）
　春光台公園からの眺望の良さ、5 月から初夏にかけて見える大雪山は実に素晴らしいだろうなと思います。その観点で見るとどちらの案がいいのかなと。総合公園は春光台公園のほかに常磐公園、神楽岡公園、忠和公園がありますが、このような素晴らしい眺望のところはほかにはありません。この眺望の良さをどちらの案の方が生かせるのかということが、最後の決め手になると思っています。
（進　行：Ａ）
　次に、Ｈ様お願いします。
（参加者：Ｈ）
　コストは安いに越したことはないと思いますが、個人的には安全性が重要だと考えています。比較検討の中で、風の子館は全てのハザードの解消は難しいというのに対して、森のかくれんぼは全ての部位が現行の安全基準を満たすということで、森のかくれんぼの方が安全に使っていただけるのかなと思いました。また、親御さんが少し目を離すと子どもが見えなくなることがありますが、そういった面では、森のかくれんぼの方が安心だと思います。ただ今の風の子館がなくなるというのは心惜しいなという思いもあるので、どちらか選

ぶのは難しいと思っています。
　アンケートについては、大人向けは町内会のほかにも、例えば公園を利用する親御さんからもらうのもいいのかなと思いました。
（参加者：C）
　確認したいのですが、改修費 3 億 3,400 万円、整備費 2 億 3,400 万円ということで、最終的に市が出すと思いますが、例えば改修案にしたいという意見の方が多かったら、この金額が通るということでよいのでしょうか。
（事務局：説明）
　そのように考えています。
（参加者：C）
　この 36 年というのは、何を基準にした年数ですか。
（事務局：説明）
　いわゆる大型複合遊具の耐用年数は、何も修繕などをしなかった場合は 15 年なんですが、それを予防保全型管理と言って、細かい修繕をしながら延命化させようという考え方があり、それを基にした 36 年という年数で試算しております。
（参加者：C）
　そうすると、例えば今皆さんの話を聞いた限りだと、風の子館が多いと思いますが、希望ばかりが先行するのではなく、最終的にはどうしても予算というものがついてくるので、今後 36 年間の中に旭川市の人口はどんどん減ってきて税収も減っていくという中で、果たして金額が高い風の子館でいいのか。そういった長期的な目線で考えた方がいいのかなと思いました。景観を壊さないことなども大事だと思いますが、やはり金銭的なことも考えるべきだと思います。
（進　行：A）
　ほかに何かご発言はありますか。
（参加者：B）
　改修費と整備費が両方とも 1 億 8,100 万円というのは、たまたま同じになったのか、もしくは何か合わせてこの金額にしたのか説明していただきたいと思います。
　また、春光台公園で有志による見学会が２回ほどあって私も参加させていただいたのですが、そのときに説明してくれた方は、基本となる部材についてはしっかりしているので、雨に当たるような部分は改修が必要ですが、ほかはそんなに改修する必要はないという話をされていました。私も中を見ましたが、かなりしっかりしていた印象でした。これだと改修するにはだいたい 3,000 万から 4,000 万円くらいかなという話も出ていて、どこをどのように改修するのかによるとは思いますが、どうして市の試算がこんなに高いのか説明していただきたいと思います。
（事務局：説明）
　風の子館と森のかくれんぼの改修費が同じ点について、まず風の子館については、全面改修すると高額になるため、なるべく今のデザイン、コンセプトを活かしたまま、最小限の改修にできないかと考えたところであり、森のかくれんぼを建てるのと同じくらいの金額になるように検討していました。その結果、最初の段階で差はありましたが、部材の高騰などもありますので、今年度改めて試算した結果、たまたま同じ金額になったところです。
　風の子館の改修内容については、直接部材に雨が当たるような場所については劣化が進んでいるためその部材を取り替えることになりますが、今までのデザインを残した形で改修する予定であり、その際、やはり危ない部分は改修する必要がありますので、全てのハザードを改修することは難しいですが、子どもが大きなケガをするリスクがあるハザード 3 については改修しようということで改修案を検討しました。
（参加者：B）
　たまたま同じになったということか。
（事務局：説明）
　近づけるように試算していましたが、全く同じ金額になったのはたまたまです。
　先ほど議題の説明時にもあった資料 13 ページの右側部分について、図面は少し見にくいですが、いわゆる劣化度の高いところ、黄色のところは撤去して大きさもかなり小さくなりますが、ここは維持管理費用にも関わるところなので小さくしたということと、劣化の激しい劣化度ＣとＤについては改修するという方針で進めてきました。

（参加者：E）
　この金額は決定なんでしょうか。
（事務局：説明）
　試算であり、まだ契約したわけでもありません。概算額として捉えてください。
（参加者：E）
　この１社だけでは信用できないと思いますが、市役所は物事を決めるときに何社か見積りをとって一番安いとこにするということはしますか。
（事務局：説明）
　最終的な工事発注はもちろん競争入札をして決めます。
（参加者：E）
　風の子館でネックになっているのは費用面だけだと思うので、少しでも安くなるといいと思います。
（事務局：説明）
　維持管理費については、木製ということで鉄製やプラスチック製と比べてメンテナンスの頻度が多くなること、また、サイズが大きいので、使用する部材も大きくなって、結果的に風の子館の方がランニングコストがかかるというのが今の試算になっています。
（参加者：E）
　先ほどの話だと、見えるところは朽ちている部分が多いかもしれませんが、中はしっかりしていて使える部材も多いようなので、もう少し安くなるのではないでしょうか。
（事務局：説明）
　令和７年度に改めて健全度調査というのを実施して、細かい構造単位で評価した上で、取替えが必要ないところや直せるところなどを確認した結果となっています。
（参加者：C）
　この概算金額は何社から聞いたんですか。
（事務局：説明）
　概算金額は２社から聞いています。
（参加者：E）
　それはどこの会社ですか。
（事務局：説明）
　昨年度、遊具改修方針検討委託を行った中で、札幌の遊具メーカーと平成 6 年度に実際に風の子館の建設に携わった本州の遊具メーカーの２社から見積もりを聴取した金額を今年度の単価に置き換えて算出しております。
（進　行：A）
　ほかに何かご発言のある方はいらっしゃいますか。
（発言なし）

次第４　その他
（進　行：A）
　それでは、続いて、次第４の「その他」についてですが、事務局から説明があるとのことですので、説明をお願いします。
（事務局：説明）
　まず本協議会の今後について、本協議会は今年度中にあと２回ほど開催したいと考えております。具体的には、10 月下旬～11 月上旬と来年２月頃を想定しており、改めて皆様に日程の御相談をさせていただきたいと考えております。
　また、本日の議題は事務局からお示したものでしたが、参加者の皆様からも、春光台公園のこれからの整備、管理、運営について、意見交換したい話題がありましたら、次回の懇談会前までに事務局にお伝えいただければと思います。
（進　行：A）
　事務局から、今後の予定と参加者の皆さんからの話題提供についての話がありました。せっかくの機会ですので、もし何かありましたら、事務局に伝えていただければと思います。
　皆さんから何かご発言はありますか。
（参加者：E）
　風の子館のいいところを自然保育の観点で出すといくらでも話ができて、ほかの遊具と

どう違うのかというと、常磐公園の改修する前のタコ遊具は、登れないところには登れないんです。0 歳から 2 歳までは登れなかった。でも大きくなったら登れる。また、死角がけっこうありそうなんですが、実は大人がのぞこうと思えばのぞけます。風の子館も同じで、0 歳から 2 歳の子だと登れないところは絶対登れないんです。それは大きくなって登れるようになる。先ほど死角があるという発言がありましたが、私が使ってみて思うのは、大人が遊具の中に入り込んで子どもと一緒の場所で過ごせる遊具というのはほかにはないと思います。カラフルな遊具は死角はないかもしれませんが、階段が単調なので大人の手の届かないところまで２歳児が上がって行くことができてしまい、それで親が言う言葉は、「これ登らないで」、「降りてきて」。親は見えるけど助けに行けないんです。しかし風の子館は親が行って抱きかかえて連れて来ることができます。お年寄りの方もいらっしゃいましたが、バリアフリーではないにせよ、上がったところに椅子や段差があり座って休むことができたり、子どもを眺めることもできるので、そういった面では死角はないと思います。

導線のことも資料に書いてありましたが、誰が導線を作ったかというと大人のための導線で、滑り台は上から下に行かなければならないなどというルール。その中で子どもたちは上から下へ行って遊ぶ。それは導線があるんですが、主体的に導線を作れる遊具というのはルールがないんです。風の子館でどうしてみんなが遊べるかというと、子どもたちが主体的にルールを作る。ここで反対に回ったらぶつかるということが子どもは容易にわかる。それがわかるような子どもに育てられるところが風の子館だと思います。子どもたちが主体的に覚えて主体的に危ないところ危なくないところを決められるそういう遊具なので、お金以上の価値があると思います。

（進　行：Ａ）

ほかに皆様から何ご発言はありますか。

（発言なし）

それでは、本日予定していた議題の意見交換は以上となりますので、事務局へお返しします。

次第５　閉会

（進　行：事務局）

Ａ様、ありがとうございました。

本日の会議録につきましては、次回の会議までに市ホームページで公表する予定です。

以上をもちまして、令和８年度第１回春光台公園運営協議会を終了いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。

以上

会議の様子







